

努力事項解説 その2 (小学校音楽)

「児童が、音楽を形づくっている要素を聴き取り、
音楽のよさや美しさと結び付けて感じ取ることができるような
授業の展開を構想する。」の実践のポイントを考えていきます。
今回は2年生の「ドレミの楽器であそぼう」のポイントです。

○ 第2学年 題材「ドレミの楽器であそぼう」の場合

この題材では、低学年の学習内容の「(2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。」の、「ウ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。」について、共通事項の「音色」「旋律」「問いと答え」「用語(四分音符)(四分休符)(八分音符)(八分休符)」と関連させて指導するようになります。

(1) 『ドレミでお話』のポイント

音楽づくりの内容に捉えられがちですが、ねらいは「楽しみながら、ドレミファソ及びその逆の運指をスムーズに演奏すること。」です。教科書の図形楽譜では跳躍した運指はできないようになっており、隣の音にスムーズに進むことをねらいとした練習と考えられます。

ただ、「よびかけ合うようにつなげてあそぼう。」という働きかけがありますので、これを行うとすると、「呼びかける感じの旋律にはどうすればいいかな?」と働きかけ、続く感じを出すために、最後の音に「ミ、または、ソ」を選ぶように教師がヒントを与えて支援していきましょう。

(2) 『かえるのがっしょう』のポイント

今回は、「ドレミの楽器であそぼう」ですから、中心になるのは鍵盤ハーモニカで演奏することです。歌唱については、鍵盤ハーモニカでしっかり演奏できるようになるために、階名で歌ったり、歌詞で歌ったりするのだという考え方で指導することが大切だと思います。

ポイントは、2段目の「ミファソラソファミ」を演奏するために、腕を含めた手の平行移動をどうやってスムーズに行わせるか、です。ここでは、教師がこうしなさい、と指導するのではなく、例えば

「2段目のラの音を弾く指がなくなっちゃうね、どうすればいいかな?」

「どうすれば、2段目のミの音を親指でしっかりだすことができるかな?」

など、児童に考えさせたり、教師がやって見せたりして、必要感を持たせて指導していきましょう。

「りんしょうであそぼう」については、しっかりできるようになったら挑戦してみましょう。児童は、意図せずに三度の和音を味わうことができますから、驚き喜ぶのではないのでしょうか。

(3) 『かっこう』のポイント

教科書にあるように、ソ→ミ、ファ→レ、の三度の跳躍音程を演奏することがこの曲のねらいです。楽しみながらできるように、テンポをゆっくりにしたり、教師がやって見せたりして、個別指導を行い、全員ができるようにしていきましょう。なお、歌唱については、「かえるのがっしょう」と同様です。

(4) 『チューリップ』のポイント

3段目の1小節目の指の移動がポイントです。「かえるのがっしょう」と同じように、教師が教科書のおりに教えるのではなく、児童にどうすればいいか考えさせ、試行錯誤するなかで必要感を感じさせ、最終的に教科書にある方法が一番合理的であることに気付かせていきたいものです。中には、自分独自のやり方を見付け、それにこだわる児童がでてくる場合もありますが、さまざまな楽曲を演奏することを通して、合理的な方法に気付かせていくようにしましょう。





次回は、3年生の実践のポイントを考えていきます。8月2日（金）頃
アップする予定です。